

旭化成グループがセンスエア、Hök Instrument ABに出資

旭化成エレクトロニクス株式会社（日本、以下 AKM）がセンスエア社を買収します。センスエア社と AKM は 2016 年に共同事業をスタートし、その成果としてこのたび新世代の CO₂・ガスセンサをリリース致します。また、このたびの協業により、センスエア独自のノウハウと技術は、AKM のエンジニアにも周知されることとなりました。

自動車産業における大手サプライヤーである AKM は、今後センスエアとの協業により、①屋内空気質測定、②車両用アルコール・CO₂ センサ、③スマートホーム・スマートシティ向け IoT ソリューション、④環境モニタリング、等の開発を継続する意向です。

AKM は、半導体製品（シリコン半導体）や、各種センサの開発、製造を行っています。AKM の材料技術（Ⅲ-V 族半導体）は、不可視光（UV、IR）の用途において世界トップクラスを誇ります。

センスエアと AKM は現在、自動車分野における空気質・安全の向上・アルコール検知のほか、今後需要の増加が見込まれる一酸化炭素センサに注目しております。

AKM は、センスエアの製品開発、サービス、センサ製造技術の拡充に向けて投資を行う意向です。センスエアとしましては、これまでと同じ SenseAir ブランド、変わらぬ経営体制を続けて参ります。

Peter Lageson（センスエア現 CEO）

「センスエアはヨーロッパ、アメリカ、アジア向けのセールスにおいて、既に国際企業となっている。自動車産業で大きな影響力を持つ AKM への統合により、車内の空気質と運転者の安全を実現する自動車向けセンサなどの分野において、更なる成長が見込めるだろう」

Hans Martin（センスエア創業者）

「需要の増加に対処するには、我々の事業に投資してくれる強力なパートナーが必要だ」
「AKM は、他の日本企業同様、長きに渡り事業の拡大に取り組んでおり、今後もスウェーデン向けの投資を継続していく意向です。これは我々にとっても嬉しいことです。センスエア独自のガス・空気センシング技術を広めることができるのです」

3 か月前、センスエアは、アルコールセンサに関わるジョイントベンチャーを強化するべく、Hök Instrument AB を買収しました。Hök Instrument AB の創業者 Bertil Hök は、イノベーションへ向けた取り組みを続ける AKM に大きな期待を寄せています。

「AKM と Hök Instrument AB は、バリューチェーンの中で着実に前進を続け、アルコールやドラッグなど重要な社会的課題への取り組みを続けていく意志を共有しています」

※本内容はセンスエア社のリリースをもとに翻訳したものです。英文との相違がある場合は英文の内容を優先します。